

# 令和8年度 国交省都市局関係 概算要求 3,843 億円に

国土交通省の令和8年度予算概算要求は、国費総額7兆812億円(対前年度比1.19倍)となった。都市局関係では事業費3,843億円(1.21倍)、国費1,560億円(1.20倍)で、国営公園等が事業費418億円(1.15倍)、国費385億円(1.19倍)、市街地整備が事業費3,354億円(1.22倍)、国費1,128億円(1.20倍)となった。

令和8年度都市局概算要求の基本方針は、「令和の都市リノベーションで、日本の生活空間を、より豊かに」として、地域に民間投資を呼び込み、人々が行き交い、集い、語らう、個性ある都市空間をつくるため、①コンパクト・プラス・ネットワークの強化、②地域資源を活かしたまちづくりの急加速、③エリアマネジメントと国際競争力の強化、④まちづくりGXを掲げ、広域的な景観まちづくりや都市緑地の質・量両面の確保、TSUNAG認定の更なる活用促進などを推進する。

また、国土強靱化、復興まちづくり、事前防災・事前復興で、安全・安心なまちをつくるため、復興まちづくり事業や事前復興まちづくり計画の策定を推進するとしたほか、国際連携・海外展開、2027年国際園芸博覧会(正式略称:GREEN×EXPO2027)と首里城復元のため、その準備や取り組みの着実な実施を図ることとした。

まちづくりGXでは、地球的・国家的規模の課題である①気候変動への緩和策・適応策(CO2排出削減、暑熱対策等)や②生物多様性の確保(生物の生息・生育環境の確保等)、③人々のライフスタイルの変化を受けたWell-beingの向上(健康の増進、良好な子育て環境等)の社会的要請に対応するため、環境に優しい都市構造への変革、都市におけるエネルギーの面的利用の推進、都市緑地の多様な機能の発揮を図る取り組みを進めるほか、猛暑の中でも安全・快適に暮らせる都市環境づくりを推進する。

GXのうち、緑とオープンスペースの確保では、都市公園の整備を含むグリーンインフラの社会実装、緑地の保全や緑化の推進、金融等との関係者との連携を通じた民間事業者等による緑地確保の後押しを進め、CO2吸収、生物の生息・生育空間の確保、健康増進等を推進する。

令和6年11月に施行された都市緑地法等の一部を改正する法律により創設された企業等による良質な緑地確保の取り組みを、金融機関、第三者評価機関とも連携して、国土交通大臣が認定する

猛暑の中でも安全・快適に暮らせる都市環境

○まちなかのクールスポット創出への支援

官・民で取り組む冷却効果の高い施設(緑化施設、保水性舗装、日よけ等)の設置への支援、暑熱対策に資する緑化の取組に係る重点的な支援、民間都市開発事業者等が先進的に取り組む実証事業への支援により、まちなかのクールスポット創出を推進する。

【まちなかウォーカブル推進事業、都市構造再編集支援事業、都市再生整備計画事業、脱炭素・クールダウン都市開発推進事業等】

○デジタルも活用した暑熱対策の検討

3D都市モデルを活用したユースケース開発への支援、ICT等を活用したスマートシティ施策の開発・実証事業、計画策定等に係る支援を通じ、官民の暑熱対策の検討を推進する。

【都市空間情報デジタル基盤構築調査、都市空間情報デジタル基盤構築支援事業、イノベーション・スマートシティ形成支援事業、官民連携都市再生推進事業】

デジタルを活用した対策の検討

樹木・植栽

屋上・壁面緑化

日よけ

透水/保水性舗装

制度(TSUNAG)を一層活用することで、民間投資の呼び込みを促進。緑地の保全・整備の推進として、樹木の皆伐や択伐等により樹林の更新等を図る機能維持増進事業について、緑地の質の更なる向上を実現するため、計画的な取り組みや官民連携による取り組みへの支援を強化する。

また、猛暑の中でも安全・快適に暮らせる都市環境では、まちなかでのグリーンインフラの社会実装、クールスポットの創出に係る先進的な取り組み等の支援やデジタルも活用した暑熱対策の検討を進め、ヒートアイランド対策を推進する。

国土強靱化、安全・安心、防災・減災・復興まちづくりでは、令和6年に発生した能登半島地震等からの復興や、激甚化・頻発化する自然災害から国民の生命・財産・暮らしを守るため、国土強靱化を推進するとともに、安全・安心、防災・減災・復興まちづくりに向け平時からの事前防災・事前復興に関する取り組みを推進。公園施設の老朽化が進む中でライフサイクルコストの縮減等が求められていることを踏まえ、長寿命化計画策定等を

緑とオープンスペースの確保

○企業等による緑地確保の取組の加速化

企業等による緑地確保の取組を促進するため、金融機関、第三者評価機関とも連携して、TSUNAG認定を活用したモデルケースを創出し、良質な緑地確保の取組への民間投資の呼び込みを図る。

【まちづくりGX緑地確保推進調査】

○緑地の保全・整備の推進

樹木の皆伐や択伐等により樹林の更新等を図る機能維持増進事業について、緑地の質の更なる向上を実現するため、計画的な取組や官民連携による取組への支援を強化する。

【都市公園・緑地等事業】

企業等による緑地確保の取組

吉田山特別緑地保全地区(京都府京都市)

## 樹林 日造協の強みを生かして 組織の価値向上と造園業界の発展を

昨年から、北海道総支部では、北海道らしい世界水準の観光地に相応しい良好な沿道景観の形成の実現に向けて北海道造園緑化建設業協会と共同で取り組んでいます。

どこかで聞いたようなフレーズだと思った方は、日造協ニュースを熟読している方ですね。このフレーズは日造協ニュース6月の樹林に掲載されていた沖縄県総支部で取り組んでいる活動のフレーズの丸パクリです。

昨年の理事会の時に森根総支部長にお話を聞きその取り組みに共感し、今年2月に北造協の役員、事務局、そしてこの取り組みに共感して頂いた5名の道議会議員の方々と沖縄に視察に行きました。

沖縄県総支部の皆さんをはじめ県庁の担当部局、県議会議員の方々と様々な意見交換の場や現地視察のご案内などその節は大変お世話になりました。

視察の後、我々は「北海道らしい世界水準の観光地に相応しい良好な沿道景観の形成の実現に向けて」独自の提案書を書いたように作成しました。一部をご紹介します。

宿泊税を財源とした「(仮称)北海道グリーンツーリズム推進基金」を創設し、以下の事業に重点的に投資することを提案します。

基本的な考え方「(仮称)北海道グリーンツーリズム推進基金」は、宿泊税収入を主な財源とし、北海道の美しい自然と都市が調和した景観を創出し、観光客と住民双方に恩恵をもたらす持続可能な緑化事業を推進することを目的とします

具体的な事業内容  
主要幹線道路・観光拠点周辺の街路樹整備・更新

通じ、誰もが安全で安心して利用できる都市公園の整備等を進める。

2027年国際園芸博覧会と首里城復元では、博覧会について、花と緑の関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福

地域の気候・風土に適した樹種の選定北海道の厳しい気候に強く、病害虫に強い在来種や郷土樹種(例ナナカマド、イチョウ、カエデ類、シラカンバ、エゾヤマザクラなど)を優先的に植栽する。

老朽化した街路樹の計画的な更新と危険木の除去

都市では、老木化・危険木化した街路樹への対応が課題となっており、危険と診断された樹木は速やかに撤去されていますが、近年の気候変動により危険木が大量に発生する可能性もあることから、基金を設置・活用し、計画的に健全な樹木への植え替えを進め、安全で美しい街路樹並木を維持する必要があります。

歴史的建造物周辺、観光地の入り口など景観形成が特に求められるエリアでの重点的な緑化

(例)札幌市大通公園周辺、小樽運河周辺、函館元町地区など、観光客が集中するエリアにおいて、周辺の建築物や地域性との調和を考慮した緑化の推進など

一部ですが、このような提案を発注者に提案し景観の維持、仕事量の確保などを目的に取り組んでいます。

この取り組みを広く周知するため、毎年実施している北造協との共同事業「造園技術講演会」において、2月に沖縄でお世話になった沖縄県沿道景観室長下地様を招き、講演を予定しています。

この取り組みの効果はまだ分かりませんが、日造協の全国組織としての強みを活かしてこれまで以上に各地域と交流し情報発信することで、地域課題の解決や造園業界の発展、そして日造協の価値向上につながる可能性があることを改めて感じました。

感が深まる社会を創造する機会となるよう、開催に向けた準備を着実に進め、首里城について、令和8年秋の復元に向けた首里城正殿の本体工事を実施するとともに、北殿の設計等を進める。

## 全国労働衛生週間 本週間10/1~10/7 準備期間9/1~9/30

全国労働衛生週間は、働く人の健康の確保・増進を図り、快適に働くことができる職場づくりに取り組む週間で、昭和25年に第1回が実施されて以来、今年で第76回を迎え10月1日~7日を本週間、9月1日~30日を準備期間に実施されます。

今年のスローガンは、一般公募で募った311作品の中から「ワーク・ライフ

・バランスに意識を向けて ストレスチェックで健康職場」が選ばれました。

働く上で基本となるこころの健康の確保について、ワーク・ライフ・バランスを確保するとともに、令和7年5月に成立した改正労働安全衛生法で労働者数50人未満の事業場にもストレスチェックの実施が義務化されたことを契機に、今一度ストレスチェックをはじめとした職場におけるメンタルヘルス対策を点検し、健康に働くことができる職場づくりを目指していくことを表しています。

## 第17回 造園技術フォーラム 特別講演

忽那氏と小松氏が大阪万博、グラングリーン大阪のランドスケープを語る

日造協は7月3日、「第17回 造園技術フォーラム」を大阪市中央区のKKRホテル大阪で開催した（前号既報）。今回は、第2部「未来の防災都市の2025大阪・関西万博開催記念講演」について、概要を紹介します。日造協会員の皆様は、会員専用サイト内の「デジタル図書館」より、特別講演の動画をご覧ください。検索画面にて「検索したいキーワード」を入力し、検索してください。

### EXPO2025 大阪・関西万博のランドスケープについて

（株）E-DESIGN 代表取締役 忽那 裕樹 氏

忽那氏は大阪関西万博のランドスケープデザインディレクターとして、会場全体の空間設計と緑地計画を担当。講演では、万博会場のデザインコンセプト、実施プロセス、そして大阪の都市としての歴史的背景と未来像について述べた。

忽那氏は、まず自身のランドスケープデザイナーとしての経歴と哲学を紹介し、「場所を楽しく使いこなす」ことの重要性を強調した。

また、1995年の神戸の震災復興か

ら活動を始め、形だけでなく仕組みと動きを含めた総合的なランドスケープデザインの重要性を学んだとした。

大阪関西万博のランドスケープデザインについては、「祝祭する



忽那 裕樹 氏

### グラングリーン大阪のランドスケープについて

（株）日建設計ランドスケープ設計部長 小松 良朗 氏

小松氏はまず、都市における緑の重要性を示し、世界から選ばれる都市になるためには魅力的な緑が必要だとした。

今回のテーマであるグラングリーン大阪は、もともとJRの貨物ヤードだった9haの敷地に、4.5haの都市公園と周辺の民間開発を組み合わせたプロジェクトで、ニューヨークタイムズが「今年訪れるべき都市」として大阪を選んだ理由の一つとして、このグラングリーン大阪が挙げられているとした。

プロジェクトの構造として、中央に大阪市の都市公園があり、その整備を「官主体のベースグレード」と「民主体のアッ

プグレード」に分け、周辺開発と合わせて官民連携で進めているとし、世界的に有名なアメリカのランドスケープ事務所GGN等と共同で設計を行い、敷地全体が「大阪本来の潤ったみどりの大地」というコンセプトで統一されているとした。

また、デザイン上の特徴として、南北



小松 良朗 氏



会場の様子

島々」というコンセプトを提案し、会場全体を瀬戸内海の風景に見立てた設計を行った。

砂漠のような更地だった会場に、植栽帯による島なみの風景を作り出し、パビリオン等構造物の間にも緑のフィルターを配置することで、シークエンスで風景が現れる空間体験を創出した。また、大屋根リングの上部を「季節の時計」として、季節ごとに草花が咲く風景を作り出した。

忽那氏は、万博後の跡地利用についても強い関心を持ち、当初予定されていた「更地化」に反対し、緑地を残す提案を行った。

また、大阪の都市としての歴史的背景

や水辺との関係性についても触れ、「水都大阪」プロジェクトなど過去の取り組みを紹介しながら、忽那氏も関わっている御堂筋の全面公園化等も含め、大阪市内の緑の公共空間をネットワーク化する「グリーンアロー構想」など、都市全体のランドスケープビジョンと大阪の未来像についての考え方も披露した。

忽那氏は講演全体を通じ、単なる空間デザインだけでなく、法律や条例の改正を含めた「仕組み」の変革、そして人々の活動や使い方を含めた「動き」の設計の重要性を強調。さらに、官民連携の中間支援組織の役割や未来に向けた大胆なビジョン提示の重要性についても言及した。

の公園を分断する道路空間を一体的にデザインし、3つの「ハート（中心）」を作るデザインの骨格を紹介。南公園は大阪駅に近い都市的な活動ができる芝生広場、北公園は水辺の森、そして中央の道路空間を3つ目のハートとして設計した。

小松氏は、日本庭園の美しさを意識した繊細な地形設計にこだわったとし、わずか3mの丘の起伏によって多様な居場所と奥行きのある景観が生まれていると説明した。

さらに、建築とランドスケープの一体的なデザインにも注力し、建物のボリュームが公園に向かって小さくなり、角度を変えながら緑に溶け込んでいくデザイン手法が特徴であると紹介した。

植栽デザインは、北側は淀川に近い自然な水生植物主体の水辺の風景を目指し、

南側は都市的な要素を取り入れるなど、場所によって特性を変え、日本の四季を感じられる植栽計画や色彩にこだわったガーデンデザインも特徴の1つとした。

また、生物多様性への配慮にも積極的に取り組み、淀川や大阪城公園等の生物調査をもとに誘致目標種を設定し、適切な環境づくりを行った。

小松氏は最後に緑の持つ環境価値を可視化する取り組みについて紹介。CO<sub>2</sub>固定量や熱環境改善効果、生物多様性への貢献、雨水流出抑制効果などを数値化・ビジュアル化し、「緑のものさし」としてウェブで公開している。これにより、緑の価値を一般の人々にも分かりやすく伝え、グラングリーン大阪のようなこうしたプロジェクトが続いていくきっかけになることを期待しているとした。

学会の目・眼・芽 第144回

## 街路樹を取り巻く社会の変化

（公社）日本造園学会理事・兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授 赤澤 宏樹

街路樹は、庭園や公園のように単独で景観や利用環境を形作ることはい少ないものの、道路や建築物と調和することで都市全体の価値や機能を向上させます。

四季折々の緑陰が快適さと安らぎを与え、大気の浄化や生物多様性の確保、防災など多面的な存在効果が再認識されています。植栽帯を活用した協働花壇や、歩道と一体となった滞留空間のような、利用のバリエーションも増えています。

ここから波及する効果として、例え

ば根上がり抑制による安全な歩行空間は、子育て世代や高齢者にとって安心できる都市環境づくりに直結しています。商業・業務エリアにおける豊かな街路樹は賑わいを創出し、海外事例では不動産価値の維持向上に資することが示されています。

一方で、倒木や落枝のリスク、落ち葉への苦情、更新時の合意形成や維持管理の予算削減など、気候変動や少子高齢化を背景とした課題が大きくなってきています。「量的拡大」に主眼を置

いた街路樹整備から、「質的向上」への転換期を迎えていると言えるでしょう。

計画は最適化へ、整備は既存街路樹の更新へ、維持管理は複数年度での育成管理や地域協働へと、現場の舵も大きく切れつつあります。社会全体として、造園技術を基盤に、波及効果を発現させることが求められています。

日造協をはじめとする業界団体でも、これらの動きに対応した新たな取り組みが推進されています。加えて学会活動と連携することによって、政策提言、人材育成、普及啓発などがより多様化・具体化・活性化することが期待できます。

iTree や GIS などのデジタル技術の活用は、研究分野だけでなく、今後の現

場でも欠かせないものとなるでしょう。政策提言においては、産官学が一体となって議論し実行へと導く姿勢が重要です。人材育成また普及啓発では、異論なく産官学の協力が必須とされていると感じます。

造園学会は、土木・都市計画・農村計画・環境計画など隣接分野とのつながりつつ、産官学市民のコミュニケーションの活性化を目指しています。

全国・支部大会、各種刊行物は情報交流の場となり、街路樹をテーマとした研究推進委員会も活動中です。

造園技術者の皆さまとは、「なにかあれば協力する」に留まらず、「共に新しい価値を創造する」ために積極的に連携を図っていききたいと思います。

建設業事業主の方へ

従業員を  
守れる会社が  
これから、きっと強くなる!

建設現場労働者のための退職金制度

# 建退共

K E N T A I K Y O

## 建設業退職金共済制度は、 建設業界の人と企業の未来を見据え、 国がつくった退職金制度です。

掛金は損金扱い!  
新規加入で一部免除

電子ポイント方式なら  
手続きもカンタン!

一人親方も  
任意組合で加入できる!

詳しい情報はこちら ▶

建退共



<https://www.kentaikyoo.taisyokukin.go.jp/>



建設業退職金共済制度

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部  
〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1 TEL.03-6731-2866



# 大阪・関西万博 視察報告

全国から各支部長など 100 名が参加

7月4日（金）、近畿総支部の呼びかけにより、各支部長をはじめ全国から会員など100余名が参加し、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の会場を視察した。その概要を紹介しします。

視察当日は朝から晴天（猛暑？）に恵まれ、参加者は入場後、公式キャラクター「ミャクミャク」のモニュメント前で集合写真を撮影。その後、「静けさの杜」に足を運び、前日の技術フォーラムにて忽那裕樹氏の発表を聞いて参加していたこともあり、整えられた木立や植栽に目を凝らしながら、それぞれが造園や緑化の視点で見学した。

また、EXPO メッセ「WASSE」セミナー会場では、日本国際芸術祭のプログラムとして山伏問答が行われ、その中で京都府支部の高石支部長が山伏として活動されている聖護院門跡による法螺の吹鳴が披露された。力強く響く法螺貝の音と



「ミャクミャク」のモニュメント

もに、伝統文化の一端を紹介する貴重な場となった。

解散後は自由視察とし、それぞれ大屋根リングや各国パビリオンを訪問。最新技術や環境への取り組みが紹介される展示に触れ、未来を見据えた都市と自然との関わりについて、さまざまな学びや刺激を得ることができた。

自然と調和する空間づくりや緑の演出手法など、造園の専門家としての視点を交えながら視察できる貴重な機会となり、多くの参加者が満足感を持って会場



聖護院門跡による吹鳴の披露（高石支部長）



参加者で集合写真



ドイツパビリオンの外観

を後にした。

最後になりましたが、万博視察の実施にあたり、多大なるご協力を賜りました

近畿総支部および大阪支部の会員の皆様に、心より感謝申し上げます。



大屋根リングから大阪湾を展望



大屋根リング外観



アイルランドパビリオン



中国とクウェートパビリオン



シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場」



静けさの杜

## 台湾省園芸技士公会が大阪を視察

関西・大阪万博に向けた意見交換など行う

関西・大阪万博の視察に伴い、台湾花博（台北国際花博覧会）への出展等で支援・協力をいただいた台湾省園芸技士公会より、江莉琪理事長をはじめとする7名のメンバーが来阪された。

当日は国際委員会の當内副委員長がアテンドを務め、注目の再開発エリア「グ

ラングリーン大阪」および「御堂筋」の再編事業についてご案内した。

台湾省園芸技士公会は、「園芸技士」を有する技術者による組織で、官公庁、コンサルタント、造園業、資材販売など多様な分野の方々が所属している。

視察は、まず昨年秋に開業した「グ

ングリーン大阪」からスタートし、エリアの沿革や計画概要の説明に続き、施設内部の見学を実施。その後、御堂筋へ移動し、道路再編・歩道化の取り組みについて説明を行い、現地を視察した。

また、事前にご要望のあった「公共樹木の技術基準」や「大阪市における街路樹の取り組み」に関する資料も提供した。

視察終了後は夕食会が開かれ、大阪府支部の奈須支部長にも参加いただき、交流を深めた。



プロの広葉林業用に設計された  
高性能・高耐久の60cm<sup>3</sup>クラスの次世代チェーンソー  
ラージマウント、X-CUT™ チェンC85の組合せて  
高負荷作業に最適です

### 562XP® Mark II / 562XP® G Mark II

ヒールディングハンドル

排気量 59.8cm<sup>3</sup> 質量 5.9kg/6.1kg

出力：3.5kW ガイドバー：X-TOUGH (RSN®) チェンタイプ：3/8" (C85)

X-TORQ  
AutoTune

X-CUT™ AutoTuneは当社認定販売店®の限定商品です。  
取扱については販売店へお問合せください。  
(※当社が実施する認定講習を受講した販売店です)

562XP® Mark II

20" RSN 970663540

本体価格

235,400円(税込)

24" RSN 970696774

本体価格

238,700円(税込)

562XP® G Mark II

20" RSN 970663640

本体価格

249,700円(税込)

※RSN：ソリッド先端交換式バー

記載内容は2025年7月現在のものです。

ハスクバーナ・ゼノア株式会社 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9

東北支店 050-3354-7002

中部支店 050-3354-7003

西部支店 050-3354-7009

九州支店 050-3354-7012

青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県

富山県・石川県・福井県・岐阜県・愛知県・三重県・静岡県

鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県

福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

本社 左記エリア以外

0570-550933

受付時間9:00~17:00(土・日・祝日除く)

info.hv@husqvarna.jp

www.husqvarna.com/jp/

ハスクバーナ  
WEBサイトは  
こちら



ふるさと自慢

熊本県

## 今年、無形民俗文化財に認定された熊本市の祭礼

熊本市南区富合町に位置する雁回山の東北麓に六殿神社があり、源為朝が居城した所縁の地と伝えられています。

本殿手前にある楼門は「釘なしの門」とも呼ばれ、明治40年（1907年）に特別保護建造物として、熊本県で最初に国指定重要文化財の指定を受けています。

富合町は町域の殆どを平野が占め、農業の発展した豊かな土地となっていて、六殿神社では毎年10月に秋の収穫を感謝し、五穀豊穡を神に祈願する祭り「六殿神社秋季例大祭」が開催されています。

祭典では迫力のある馬を見ることができ、たくさんの人が訪れています。

馬に乗る人のことを射手（殿様）といい、地元の独身男性が務め、



六殿神社本殿

豊作を占う最も重要な役割を持つ祭りの主役になります。

当日は神聖な存在であるため、足を地面に触れさせてはならず、下馬する際などは仲間に背負われて移動しなければならないのだそうです。

そして注目の流鏑馬神事は、射手が馬に乗ってラッパの合図で出発し、全長200mの35m間隔にある3本の的に向かって矢を放ちます。



六殿神社楼門



3回の騎射が3度、計9回の騎射が行われ、当たり矢のうち3本が神社に奉納されます。矢を射る姿はかっこよく見どころになっています！

また、令和7年（2025年）3月27日には六殿宮流鏑馬が無形民俗文化財に認



定され、今年が認定されてから初めての六殿神社秋季例大祭になりますので、ぜひお越しください。

熊本県支部 田中 晴香（絃いつの造園）

## 日造協賛助会員の紹介 (株)サポリス 造園の“民間工事”契約も電子契約の時代に！



造園業の皆さまが、民間案件で取り交わす「外構工事契約書」「エクステリア契約書」「樹木販売契約書」「注文書」「注文請書」「発注書」「領収書」などの書類。これらを紙ではなくオンラインで安全かつスムーズに取り交わせる電子契約サービスが注目されています。

印刷・押印・郵送・保管の手間を大幅に軽減し、スマートフォンやパソコンでいつでもどこでも契約手続きが完結。印紙代や郵送料のコスト削減にもつながります。

外構・植栽工事に加え、産業廃棄物処

理や資材販売など幅広い事業での契約書類にも活用可能です。

導入に際し、ご不安がある方もご安心ください。

遠隔での丁寧なサポート体制があり、操作説明や運用のご相談を電話やオンラインでしっかりサポートいたします。

専門知識がなくても、初期費用がかからずに手頃な料金ですぐに使い始められます。

まずはお気軽にお問い合わせください。

株式会社サポリス

連絡先：03-6694-0458

（平日 10:00-18:00）

E-mail：sales@po.hikari.co.jp

HP：https://suppolis.co.jp/



## 「登録造園基幹技能者講習」申込み受付中

登録造園基幹技能者講習は、日造協と造園連の2団体が登録講習機関として共同で実施するもので、講習を修了した登録造園基幹技能者は、経営事項審査での加点評価、「総合評価落札方式」での評価優遇、元請企業の「優良技能者認定制度」などに活用されています。さらに、建設キャリアアップシステムにおいては、能力評価基準の最高位（レベル4）要件の資格として位置づけ

られています。

2020年度に受講資格要件を見直し、「1級造園施工管理技士」でも受講できるようになりました。

建設工事の品質確保や安全管理などが社会的にも大きな関心が寄せられている中、登録造園基幹技能者への期待はますます高まっていますので、ぜひこの機会に受講をご検討ください。

詳しくは、事業主の所在地を管轄する都道府県労働局、またはハローワークにご確認ください。

《大阪開催》定員30名

日程 2025年10月23日（木）・24日（金）

会場 日建学院 梅田校

住所 大阪府大阪市北区鶴野町1-9

梅田ゲートタワー3F

《福岡開催》定員30名

日程 2026年1月15日（木）・16日（金）

会場 日建学院 天神校

住所 福岡県福岡市中央区天神2-13-7

福岡平和ビル6F

《東京開催》定員100名

日程 2026年1月29日（木）・30日（金）

会場 全水道会館

住所 東京都文京区本郷1-4-1

**編集後記** AIの進化が事務職技術職の必要人員が減少する事が想定されます。従前の価値観を基準とする概念のままでは対策を講ずる可能性ありその吸収先に手仕事があり再評価が必要ではないでしょうか。安易な移民政策が世界的に問題を生じていることも事実です。



## 富士山登山ルート3776を登って

(株)カジオカレ・A渉  
法野谷・法野谷  
広島県支部

私が最近挑戦した登山で、特に印象に残っているのが「富士山登山ルート3776」です。

富士山といえば五合目から登るのが一般的ですが、このルートは駿河湾の海拔0mから富士山頂（標高3,776m）までを自分の足で登りきるとい、まさに“フル”富士登山となります。

スタートは静岡県田子の浦海岸。目の前には海、はるか遠くに富士山。そこから一歩ずつ、海から山へと景色が変わって行く過程がこのルートの最大の魅力です。

市街地、森、林道、高山地帯と、さまざまな地形を通過しながら登っていくことで、「富士山は単なる山ではなく、日本の地形そのものなんだ」と実感しました。

このルートは距離が長く、高低差も激しいため、体力的にはかなりハードだと思います。



さまざまな地形を通過しながら登っていく

私は2泊3日で急いで進みましたが、特に標高が上がってからの酸素の薄さや寒さには苦労しました。

それでも、ゴールの富士山頂に立った瞬間は、言葉にならないほどの達成感がありました。

0から3776mまで、すべて自分の足で登り切ったという自信は、今でも心の支えになっています。

この経験を通して、自然の厳しさ、準備の大切さ、そして「継続する力」の価値を改めて学びました。

ルート3776は、単なる登山ではなく、自分と向き合う貴重な時間でもありました。

これからも、心と体を整える手段として、山と向き合っていきたいと思います。

## 事務局の動き

【9月】

- 2（火）・広報活動部会
- 3（水）・造園技術フォーラム部会～5（金）
- 4（木）・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会（試験部会）
  - ・運営会議
  - ・造園技術フォーラム部会（DX事例発表）
  - ・2027年国際園芸博覧会特別委員会
- 5（金）・全国事務局連絡会議
- 8（月）・戦略立案部会&デザコン部会 部会長等会議
- 16（火）・植栽基盤診断士認定委員会
- 19（金）・緑地樹木剪定ハンドブック編集委員会
- 21（日）・植栽基盤診断士認定試験（学科試験）
- 22（月）・緑地樹木剪定ハンドブック編集委員会
- 24（水）・植栽基盤診断士認定試験（学科試験）採点
- 26（金）・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）
- 29（月）・植栽基盤診断士認定委員会

【10月】

- 2（木）・運営会議
- 6（月）・北陸地方整備局企画部との意見交換会
- 7（火）・広報活動部会
  - ・東北総支部交流会
  - ・街路樹剪定士研修会 講師説明会～8（木）

- 10（金）・関東・甲信総支部交流会
- 18（土）・技能五輪全国大会～19（日）
- 23（木）・登録造園基幹技能者講習（大阪）～24（金）
- 24（金）・四国総支部交流会
- 31（金）・運営会議
  - ・「ひろげよう育てようみどりの都市」全国大会

## 委員会等の活動

●広報活動部会

8/5 日造協ニュース8月号の内容確認、2025年12月までの記事構成、HPリニューアルに向けて審議

●若年者ものづくり競技大会（技術委員会）

8/3～4 あなぶきアリーナ香川で開催。26名出場。

競技委員1名、補佐員2名が運営に協力

●技術企画部会

8/8 経済調査会と歩掛調査に協力するため打ち合わせ、歩掛調査の現場候補地を数か所挙げ、9月中旬以降現場での調査に協力。引き続き打ち合わせを行う

●緑地樹木・街路樹剪定士部会

8/19 街路樹剪定士研修会の講師説明会の打ち合わせ、フルハーネスの取扱いについて審議

●女性活躍推進部会

8/28 富山県立中央農業高校出前講座。酒井部会長が冊子の「造園建設業の仕事入門」をアレンジし研修を実施